

グループワークシート グループ1 メンバー 委員長、姫野委員、川口委員、西塚委員、渡邊委員

| 課題：多様な働き方を支える環境の整備など、働き方改革への対応 子育てや介護をしながら仕事を続けるために・・・ | ⇒ どのような環境ができれば良いか、どのような対応が必要か |
|---|---|
| <p>◎働き方改革を産業振興にどう繋げていくか、難しい問題。</p> <p>■国の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性をあげることは日本全体の課題。 ・ 国として働き方を全面的に変えていかなければいけないところがある。 <p>■企業が抱える現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業の人材確保は深刻な問題。 ・ 従業員教育や働き方改革は企業の報告会などでも関心の高い分野。 ・ ただし、どの企業でも同じことを実践すれば解決されるかというと、実際は難しい。 <p>■外国人採用の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野市は外国人が増えている。 ・ 留学生をメインターゲットとして、外国人採用の目標数を定めている企業もある。 ・ 中小企業はそこまでできていないのが現状。 ・ ビザによる制約が厳しい。 <p>■子育て・介護をしながら仕事を続けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理する人の意識改革が必要。 ・ ピンポイントでの採用を行い、作業が集中する時間・期間をフォローできるのではないか。 ・ 一人で長時間働くことが厳しい、フルタイムで働けない人を活用できないか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 給食センターはお昼前後に作業が集中するため、子育て中の主婦などが活躍している。 ・ 短時間勤務者＝単純作業ではない。 ・ スポット的に働く人がやりたい仕事と、企業の求める能力のマッチングは難しいのでは。 ・ 「残業代 < 新規採用者の人件費」というのが実状。社員としては残業が減るため収入が減り、企業としては新規採用により人件費が上がるため、現状ではどちらにもメリットがない。 | <p>■働き方に関する国全体の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の評価の軸は、時間から成果の時代になる。 ・ だんだんと副（複）業可の時代になってきている。 <p>◎社員のやりがいやモチベーションが重要。</p> <p>◎モチベーションの向上が生産性向上にも繋がる。</p> <p>■課題解決の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」受賞企業は、以下のような制度で社員同士がお互いにカバーし合える仕組みをつくり、社員のモチベーションを保っている。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 顧客の情報を共有することで、担当者以外の社員も対応できるようにする。 ➢ 働き方を申告制にすることで、ライフステージにあわせて柔軟に変更できるようにする。 <p>■行政からどのような支援ができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性活躍の推進・支援 ・ 表彰制度を行政として行っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ かわさきマイスター制度（川崎市） ➢ かながわ女性の活躍応援団（神奈川県） ➢ 横浜健康経営認証制度（横浜市） <p>◎表彰を目指すプロセスが従業員の意識の変化をもたらす。</p> |